

車いす体験を通して 豊橋市立前芝中学校 1年 塩野谷 心優

福祉実践教室で車いす体験をしました。ブレーキをかける、タイヤをあげる、「ドスン」と落とさないなど、すごく操作が難しかったです。自分で乗って動かす時も、すぐに曲がることができずに、苦戦してしまいました。車いす体験を通して、操作で気をつけることや相手のことを思いやっていくことが大切だと学びました。



〈車いす体験〉

繋がりを大切に 豊田市立崇化館中学校 2年 田澤 遙香

麦の会という部活動では、地域の方の笑顔や環境のために清掃活動や学校沿いにある花壇(フラワーロード)の手入れを行っています。他にも福祉施設で仕事の手伝いや、老人ホームに制作物を贈らせていただくなどの交流もしています。麦の会でのボランティア活動を通して、いろいろな人と繋がることができます。その経験を将来に生かしたいと思います。



〈フラワーロードの活動〉

あいさつでみんなを笑顔に 名古屋市立堀田小学校 6年 五十嵐 礼

私たちの学校では、毎月4日と15日のよい子の日に、あいさつ運動を行っています。他にも、あいさつを全校に広めるための動画を作りました。あいさつの動画を全校放送してから、みんなが積極的にあいさつをしてくれるようになりました。マスクをしている今だからこそ、声だけではなく、目を見て笑顔が分かるようなあいさつを呼び掛けていきたいです。



〈あいさつ運動に取り組む代表委員〉

楽しく過ごせる学校に 岡崎市立根石小学校 5年 山本 夏蓮

私の学校では、いじめ防止集会が行われ、なぜいじめが起き、どうしたら防げるのか考えました。ストレス、自分に自信がない、友達のいじりなどが原因となることがわかりました。一人一人の意見や行動に理解を示し、相手を思いやることで、みんなが楽しく過ごせる学校になると思いました。



〈感想交流の様子〉

あいち青少年赤十字 No.134 令和4年2月発行

日本赤十字社愛知県支部
〒461-8561 名古屋市東区白樺一丁目50番地
TEL(052) 971-1599 FAX (052) 971-1590
ホームページアドレス: <https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/>

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

一緒に考えよう
～今わたしたちができることを～

手話でつながる人の心 一宮市立尾西第一中学校 1年 今枝 真歩子

難聴の人たちにとって、私達が下を向いたり目をそらしたりして話す内容が伝わりにくいということを学んだので、表情や口の動きを意識して会話していきたいです。また、パーや人差し指など、簡単なサインやジェスチャーでも伝えることができ、声に出さなくても楽しく会話をすることができることを学びました。



〈手話を学ぶ生徒たち〉

心も学校もきれいに 刈谷市立富士松北小学校 6年 信岡 礼皇

私は、朝に「朝ボラ」という活動をしています。この活動は、朝、登校すると、学校のそうじを自由参加で行うものです。この朝ボラに参加することで、学校がきれいになるのはもちろん、さらに、心もそうじされてきれいになります。そして、朝ボラに参加してほめられるので、まさに一石三鳥です。この活動を通じて、思いやりが生まれ、またさらに思いやりが生まれるので、こういう活動を大切にしていきたいです。



〈落ち葉集め〉

ecoで広がる協力の輪 愛知県立岡崎北高等学校 2年 川合 小枝

本校では、使い捨てコンタクトレンズケースを回収しています。回収後、再資源化されたケースの対価が日本アイバンク協会に寄付され、視力を取り戻したいと願うかたのために役立てられます。令和2年度は、7560個を回収しました。目の不自由なかたのために、身近でできるところから、協力の輪が広がるようにしていきたいです。



〈使用済みコンタクト空ケースの校内回収場所〉

みんなの協力が大きな力に 南知多町立篠島小学校 6年 辻 杏実

全校で行う募金の活動日は、いつもより早く登校します。児童会として、募金活動を昇降口で行うからです。初日は、「忘れちゃった。」などの声が聞かれ、わずかしが協力が得られませんでした。しかし、呼びかけを続けた結果、大きな金額が集まりました。篠島小学校は、離島の小さな学校ですが、みんなの協力が大きな力になることを実感しました。



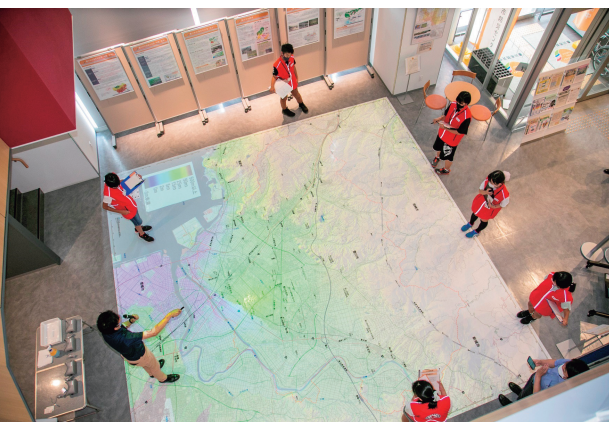
〈児童会が行う募金活動〉

子ども新聞プロジェクト2021 ー南海トラフに備えてー 後半 (133号の続き)

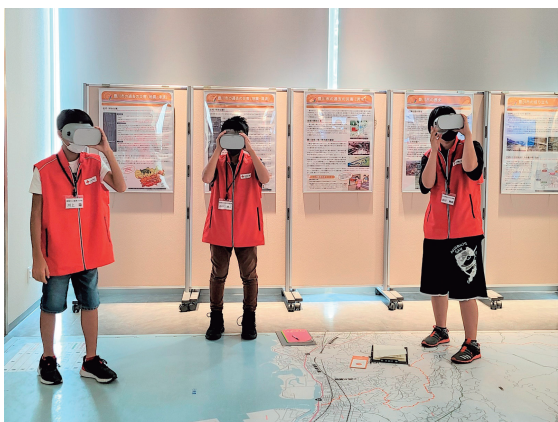
「豊川市防災センター」

2020年4月にオープンした「豊川市防災センター」は、「見て、学んで、備える」ための最新の展示物がありました。床面の巨大な地図の上に情報を映し出す「豊川まるごとプロジェクション」では、津波や地震のことなどを映像で分かりやすく知ることができました。「地震体験VR」では、ゴーグルをつけて地震の揺れや棚などが倒れてくる体験をしました。実際に、棚が倒れてきたら危険なので、家具を固定することが大切だと分かりました。

施設の方から、「山地と台地、低地では気を付けなければいけない災害の種類が違う」ということも教えていただき、この点にも気を付けながら災害に備えたいと思いました。



〈豊川まるごとプロジェクション〉



〈VRで地震体験をする子ども記者〉

旧堀切小学校の津波避難訓練

旧堀切小学校の元校長先生から津波避難訓練についてお話を聞きました。校長先生は、「津波が来てから、玄関で上履きを履き替えていると間に合わない。そのため、履き替えなくてもよく、脱げにくい上靴に変えた」そうです。また、「襲ってくる津波から走って逃げる体力をつけるために、週に3回、5分間走を取り入れた」そうです。地震対策は、場所によって違うけれど、どこに住んでいても、一人ひとりが防災に対して強く意識していくことが、被害を少なくできる方法だと思いました。



〈津波避難訓練の話聞く子ども記者〉

「田原市の南海トラフ地震対策」

旧堀切小学校の跡地には、津波避難マウンドがありました。マウンドは、高さ10メートルあり、いろいろな方向から登ることができました。また、スロープもあるので車いすでも登りやすい造りになっていました。マウンドの上にはベンチがあり、災害が起きた時には組み立ててトイレとして使えるように工夫されていました。田原市には津波が来た時に、「ここまで来れば命が助かる」という「セーフティライン」も設置されていました。命を守るためにいろいろな対策に地域で取り組むことが、今後の災害対策で一番大切なことだと分かりました。



〈津波避難マウンドのある「ほりきり広場」〉



〈トイレとして使えるベンチ〉

支部通信

気づき・考え・実行する
青少年赤十字

